

会 議 録（要点筆記）

会 議 名	令和6年度第1回米原市まち・ひと・しごと創生に関する有識者会議
開 催 日 時	令和6年6月7日（金） 15時 00分 ～ 16時 55分
開 催 場 所	伊吹薬草の里文化センター ギャラリーかくとだに
出 席 者	【委 員】金井 毅 委員、萩原 和 委員、清水 元幾 委員、高槻 官汰 委員、高橋 滝治郎 委員、中村 匠 委員、西脇 栄子 委員、東野 孝 委員、日比 優子 委員、松井 貴子 委員 【関係課】環境政策課 鹿取主幹 デジタル未来推進課 渡邊主査 【事務局】政策推進部 川瀬部長 政策推進課 松村課長、伊賀並主幹、田野主査、小川主事 【欠席者】浅井 茅子 委員、山田 輝子 委員
議 題	令和6年度まち・ひと・しごと米原創生総合戦略の一部改訂について
結 論	まち・ひと・しごと米原創生総合戦略の一部改訂（計画内容の不足部分（環境、デジタルトランスフォーメーション（以下、DX））の追加）に向けてワークショップ形式で協議を行った。 ○ワークショップまとめ 【DX】 ・利便性があがってきている。反面、置いていかれる人もいる。 ・デジタルはあくまで手段。デジタルを使い、いかに便利にして、もともとある米原の良さを活かしていくかという発想にもっていく必要がある。 ・デジタルとアナログの塩梅、バランスをとることが重要。 ・デジタルを使い倒していくことが重要。 【環境】 ・環境問題について、人づくりや企業組織の強い関わりに課題を抱えているのではないか。 ・すでに高い市民力を持って活動されているところをより一層高めていくためには別のテーマで活動していく必要がある。一つ一つの人材育成の各テーマを洗い出す必要がある。 ・伝統的なノウハウを現代化していき、これから世界に売り出していくといった成功例を上手く繋げながら、社会的責任としてCSRを作っていくことが重要。 ・持続可能な取組のために、商業化などすぐにできないとしても将来的に想定する必要がある。
審 議 経 過	1 開会あいさつ 2 協議事項 ○第2期まち・ひと・しごと米原創生総合戦略の一部改訂について（※資料に基づき事務局から説明）

○ワークショップ（委員からの主な意見）

【D Xテーマ①】米原市でデジタル化で便利になった、生活がよくなったと感
じるのは、どのような時、どのようなことですか？

【D Xテーマ②】米原市において、デジタルを活用して、誰もが便利で快適に暮
らすために足りないものや課題で思いついたものをあげてくださ
い。

●キャッシュレス化の推進

- ・他市の小学校で、絵具セットや体操服購入の際に現金しか受け付けてもらえない。
- ・店側も含めて、キャッシュレス化を進めないといけない。
- ・自治体のpaypayキャンペーン導入で利用がかなり増えている。
- ・paypayを使っていて、現金を持っていなかったりする。
- ・導入しやすいものを導入する形でキャッシュレス化を進めていくべき。

●デジタルとアナログのバランス

- ・デジタル化によって効率化が進む半面、地域のつながり、地域コミュニティがなくなってきている。
- ・役所にいっても知り合いがいない、地域で子どもを育てることができなくなっている。
- ・便利にはなっているが、いざという時に地域のつながりの軽薄化による不便さが生まれてくるのでは。
- ・コミュニティ形成にデジタルをうまく活用してまちの活性化につなげていければいいのでは。
- ・デジタル化＝効率化なので、効率化するところは効率化し、そうでないところはアナログを復活させるという塩梅がとれていないことが一番の課題。
- ・人の良さやコミュニケーションなどうまく活かし、アナログとデジタルの塩梅をうまくとることが重要。
- ・場所を選ばず仕事ができるようになってきているが、何もしないで話をする場、たまり場が重要だと企業も気づき始めてきている。
- ・デジタルではたまり場やおせっかいの場、おばあちゃんの知恵袋のようなものを提供することは難しい。また、子どもの面倒をみることもできない。
- ・企業でもオープンミーティングをやり始めている。拾えない意見をどういうふうに拾っていくかがこれから重要になってくる。今回のような意見を交換できる場、アナログ的なやり方もすごく重要。

●M a a S（Mobility as a Service）活用

- ・米原市の場合は、どこにどうやって行くのか把握することがすごく大変。M a a Sをもっと活用すべき。

- ・インバウンドなどは時間がかかってもいい。行きたいところに行ける仕組みをつくることで米原に来る意味が出てくると思う。
- ・不便でもつなげられればよい。目的地に行くための方法が分かることが重要。
- ・つなぐという発想をデジタルでどうするか。デジタルの中で今あるサービスをうまく結びつけることをやってもらえると非常にいいコンテンツが出てくると思う。
- ・高齢者でも旅行する人など（アクティブシニア）はMaaSを問題なく利用できると思う。

●Wi-Fi環境の整備

- ・Wi-Fiの環境をもっと整えていく必要がある。外部の人から見てここに行けば使えるといったスポットを明確にできれば、そこに行く人がでてる。

●人材の育成

- ・デジタル人材とは何かということがこれからポイントになってくる。
- ・AIをどうやって活用するか、しないのか。活用方法を認識することが重要。
- ・どこが不便で何が危ないのか認識しながら、まずはやっていくことが必要。米原市には、その先進事例になってほしい。
- ・AI、デジタル教育を学校教育の中で取り入れるなど人材育成が必要。

●デジタル参加促進

- ・高齢者向けの情報、デジタル教育をしていくことが重要。例えばeスポーツに高齢者を巻き込んでいくなど。簡単なところから高齢者が参加できてデジタルの世界に少しでも近づける仕掛けが必要。
- ・このままだと高齢者が取り残されてしまう。身近に感じて自分事にしていくことが重要。モチベーションをあげるような仕掛けを。
- ・高齢者の中にはデジタルに対して抵抗感がある人もいる。バランスをとらないと、これからもっと取り残された感がでてくる。あまりにも進めすぎてしまっても取り残される人がいるので、そこをどうするか。
- ・高齢者向けのスマホ講座について開催回の充実、内容の更新などしてほしい。
- ・いかに講習会に来てもらえるように働きかけをするか。実際に使っているシニアの方が説明すると案外うまくいったりする。
- ・一人暮らしの高齢者にタブレットなどを渡せば、それで交流できるようになるのではないかな。
- ・身体障がい者の方が、使いこなせる配慮を。手話を読み取れるようになるなど。
- ・障がいの程度に合わせて、何がデジタル化でできるのか検証することが重

要。

●行政サービスのデジタル化、ブラッシュアップ

- ・学校を欠席する際アプリで連絡ができるが、それとは別に学童・登校班にも連絡しなければいけない。一斉に連絡がいくような仕組みがあると便利。
- ・生涯学習のメニューをWEBを活用してやってほしい。米原市だけではなく、県内の連携など様々なものが学習できるように。
- ・出前講座の中にデジタルの内容があれば自治会で利用してもらえるのではないかな。

【環境テーマ①】米原市が環境面でステキだなと思うのは、どのような時、あるいはどのような場所ですか？

【環境テーマ②】米原らしい人と環境の関係を築くために足りないものや課題をあげてください。

●人づくり（環境学習機会の創出）

- ・ホテルに関して学ぶ機会はあるが、漁業や伊吹山についての体験型学習が不足している。
- ・五感を使った学習機会が必要。

●帰属意識の欠如と個人主義

- ・自治会加入率が低くなっている。
- ・移住者が多いが、環境や利便性など人によって移住目的・場所が違うため帰属意識を持つのは難しい。
- ・帰属意識、個人主義をどのようにつなげていくか。うまくいけば伝統的な農村集落の維持につながっていくかもしれない。また、高い市民力と個人主義をうまくつなげれば場合によっては連携するきっかけになる可能性もある。取り持つ何かがあるかもしれない。

●生業の持続と担い手の創出

- ・新規参入者への支援が不足している。
- ・生業が持続することによって景観まちづくりにつながっていく。
- ・人がいないと生業ができない。自然も環境も守れない。
- ・米原の環境は人との関わりの中で形成されてきたものである。

●助け合い、相互扶助関係の希薄化

- ・休耕田が増えている。昔の人は自分だけではなく他の家の畑も見えていたが、今は自分のところで精いっぱい。
- ・知見が地域コミュニティで共有されている可能性がある。助けあいや扶助に上手く持っていければ緩やかな連携ができ、個人主義・帰属意識の欠如が補完できるかもしれない。

●自然環境に対する取組成果の可視化

